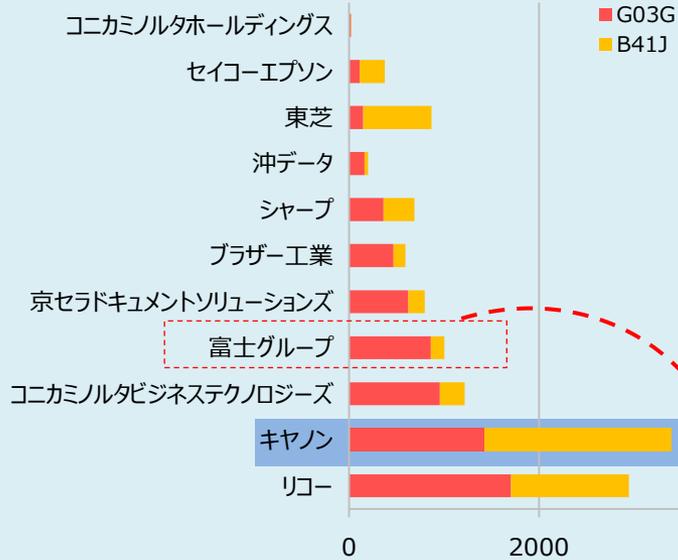


1-1 特定企業を中心にみた事業競争力分析

G03G(電子写真)とB41J(プリンター)

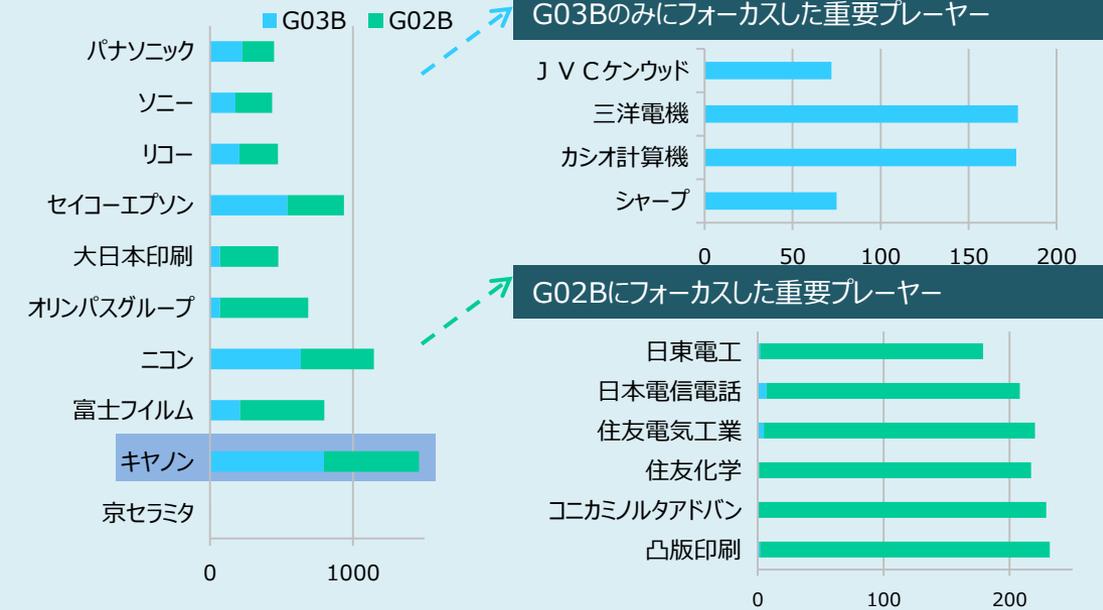


「富士グループ」の内訳

G03G(電子写真)とB41J(プリンター)



G03B(写真撮影)とG02B(光学要素)



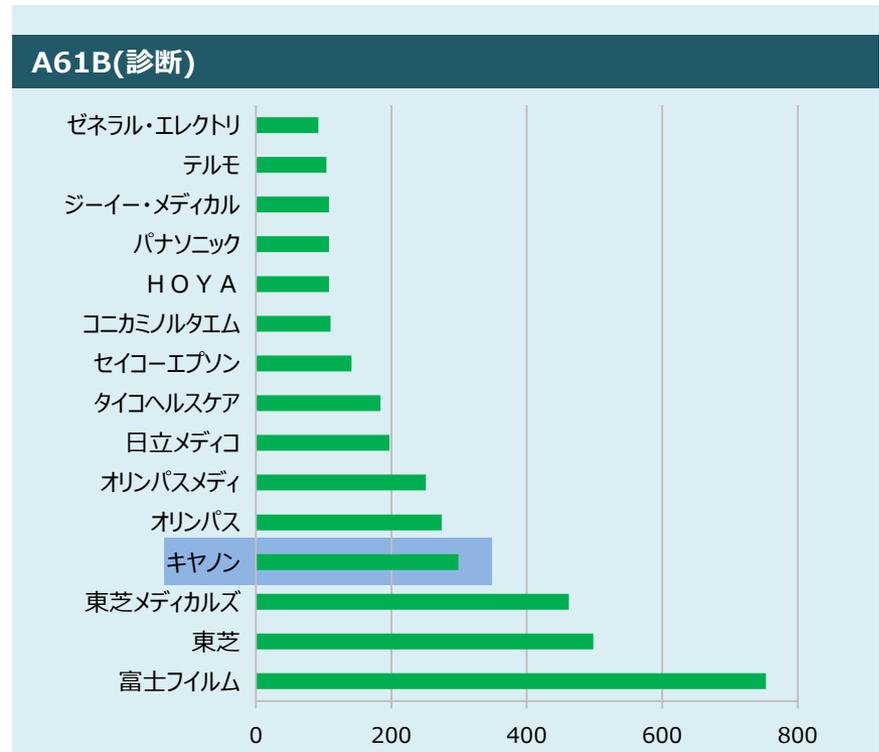
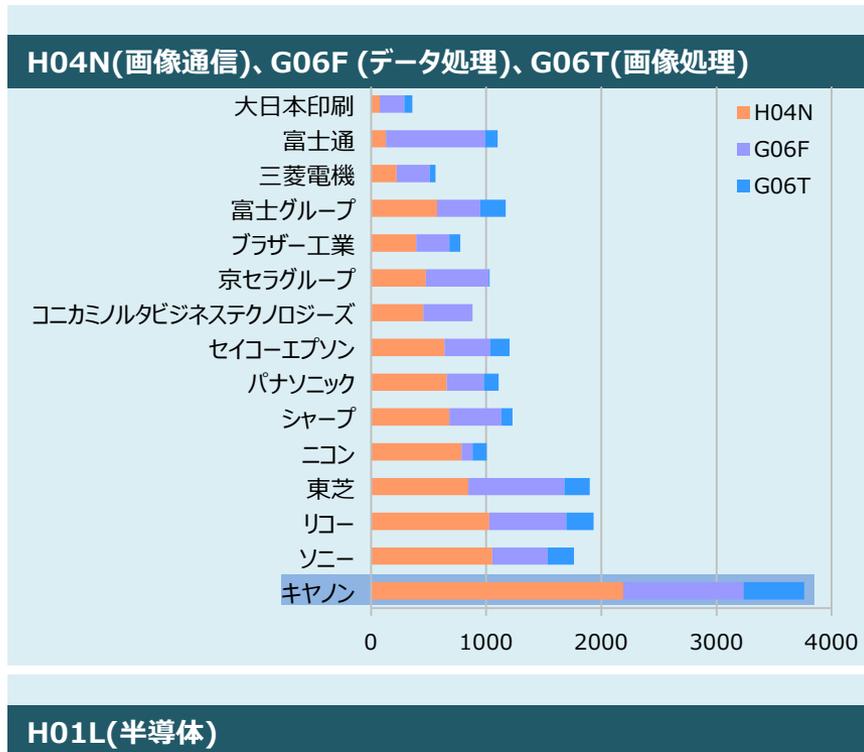
1-1-1

概観

キヤノンの事業構造を、電子写真、プリンター、写真・光学、画像通信・画像処理・データ処理、診断、半導体技術を取り上げて、関連業界毎の競争企業との関係キヤノンの地位をマクロ分析した。

電子写真 (G03G) 事業、プリンター (B41J) 事業における特許出願を見ると、キヤノンはリコーと双方の分野で拮抗している。対してセイコーとの関係ではプリンターで量的に負けている。対比企業として富士グループの内訳を図で示したが、ここからはプリンタ富士フィルムの寄与が大きいことが伺われる。写真 (G03B) と光学要素 (G02B) の分野のみでの重要プレイヤーを右のグラフに示した。

1-1 特定企業を中心にみた事業競争力分析【続き】



1-1-2

概観

画像通信 (H04N)・画像処理 (G06F)・データ処理 (G06T) の情報関連事業技術に関しては、データ処理技術で富士通と東芝と拮抗しているが、それ以外では、キヤノンが独走している。

半導体 (H01L) においては、東芝、パナソニック、シャープ、ソニー等の総合電機企業や半導体エネルギー、ルネサスエレクトロニクス、東京エレクトロン等の半導体関連企業との競争が激しい中、特許出願数では、第9番手となっている。医療関連 (A61B) では、東芝・東芝メディカルの東芝グループとオリンパス・オリンパスメディカルのオリンパスグループが抜き出ており、富士フィルムに次いだ位置関係にある。